

車椅子ソフトボールチーム 全国MAP

※2020年12月現在

- ①北海道 BRAVE FIGHTERS (北海道)
- ②De-kkaidos (北海道)
- ③宮城ファイティング・スピリッツ (宮城)
- ④宮城SKY EAGLES (宮城)
- ⑤茨城アストロプラネッツ (茨城)
- ⑥群馬シャドウクレインズ (群馬)
- ⑦埼玉A.S.ライオンズ (埼玉)
- ⑧TOKYO LEGEND FELLOWS (東京)
- ⑨八王子REQUISITALITY (東京)
- ⑩Glitters (東京)
- ⑪横浜ガルス (神奈川)
- ⑫山梨WSC (山梨)



- ⑬東海UNITED DRAGONS (愛知)
- ⑭関西unbalance (大阪)
- ⑮岡山フェザントス (岡山)
- ⑯広島サリーレ (広島)
- ⑰北九州シルバーウィングス (福岡)
- ⑱九州選抜 (福岡)

発行 日本車椅子ソフトボール協会



協賛 中外製薬株式会社



くるま い す 車椅子ソフトボール Wheelchair Softball Guidebook もっと 知りたい ガイドブック



日本車椅子ソフトボール協会

くるま い す 車椅子ソフトボールって こんなスポーツです

競技用の車椅子に乗り1チーム10名で行うベースボール型のスポーツで、屋外で行われる団体競技では数少ない障がい者スポーツです。国際車椅子ソフトボール連盟(IWSF)の目標であるパラリンピック種目としては、主に下肢障がいの選手が対象とされていますが、日本では男女の参加や健康者の参加も認められており、ユニバーサルスポーツとして老若男女問わずみんなで楽しむことができるのがこの競技の魅力です。

発祥はアメリカで、1976年から全米選手権が行われており、ボストン・レッドソックス、シカゴ・カブスなどメジャーリーグチームのサポートを受けて運営しているチームもあります。また、ジュニア(小学生～高校生)対象の大会もあり、車椅子スポーツとして広く浸透しています。

日本では、アメリカ留学中に全米選手権に出場した堀江航氏を中心となって有志を募り、2012年にアメリカで開催されたワールドシリーズへ日本代表チームとして参加したのがスタートです。2013年には一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会(JWSA)が発足し、同年には第1回全日本車椅子ソフトボール選手権大会が北海道で行われました。2020年12月、全国18チームが活動しています。2028年に開かれるロサンゼルス・パラリンピックでの正式種目入りを目指すとともに、障がい者と健康者、男性、女性、年齢に関係なく誰もが同じフィールドで楽しむことのできるバリアフリーなスポーツとして、普及・発展を目指しています。



車椅子ソフトボールの歴史

- 1970年代 アメリカで車椅子ソフトボールのチームが誕生
- 1976年 全米車椅子ソフトボール協会(NWSA)が発足
全米選手権が開催される
- 2012年 堀江航氏を中心となってチームJAPANを結成
アメリカのワールドシリーズへ日本代表チームとして参加
- 2013年 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会(JWSA)が発足
第1回全日本車椅子ソフトボール選手権大会が北海道で開催
- 2020年 日本では、18チームが活動中
- 2028年 ロサンゼルス・パラリンピックで正式種目入りを目指す

車椅子ソフトボールガイドブック CONTENTS

もくじ

車椅子ソフトボールってこんなスポーツです

02

ご挨拶

03

試合のルール

04・05

守備のルール

04・05

投球のルール

06

攻撃のルール

07

ルールの豆知識

08

競技用車椅子 専用球場

08

クラス分け

09

プレイバックシリーズ

10

パラリンピックの正式種目を目指して

11

レジェンドインタビュー 「チームJAPAN」2012ワールドシリーズ

12・13

北九州市立大学ではじまり

14・15

初のプロ野球チームとの連携 埼玉西武ライオンズ

16

中外製薬株式会社×東京国際車椅子ソフトボール大会2017

17

ワールドシリーズ国際ディビジョンで初優勝！世界一の背景

18

あとがき

19

車椅子ソフトボールチーム 全国MAP(18チーム)

20



ご挨拶

日頃は、当会の様々な活動等にご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

車椅子ソフトボールは、2013年に協会が発立され、国内ではまだ認知度の低い競技ですが、障がい者と健康者、男性、女性、年齢においても分け隔てなく、すべての人が同じフィールドで楽しむことのできる、バリアフリーな競技でもあります。

多くの方に楽しんでもらえるように、そして2028年ロサンゼルス・パラリンピック競技に参加できるように、今後も競技の普及・発展を目指し精進して参りたいと思います。

最後に、ガイドブックの制作にあたり、ご協力いただきまして多くの皆様にご心より感謝申し上げます。

今後とも、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

日本車椅子ソフトボール協会 会長 高山樹星



チーム編成

インプレイ

すべてのプレイが完了し、内野手がボールを保持したとき“タイム”を宣告し、ボールデッドとなる。

SF (ショートフィールダー)

※クラスQが不在の場合は9名(NW
SA、JWSAルール)

走者

走者が車椅子から落ちた場合、その場所から再度乗り直してからプレイを再開しなければならない。

制限ライン

投球ボールが投手の手から離れるまで、すべての内野手は内野制限ライン上またはそのラインより内側にいなければならない。投球ボールが投手の手から離れるまで、5Fを除くすべての外野手は外野制限ラインより後ろにいなければならない。違反した場合、審判はすぐに打者を塁に送る。その違反は、フォアボールとみなす。

正式の試合は7回 (イニング)

得点差コールドゲームがあるよ
…3回15点、4回10点、5回以降7点以上の点差が生じたときは、得点差コールドゲームとなる。

延長戦(タイブレーク)もあるよ
…延長戦表の攻撃から無死・走者二塁を設定して攻撃を継続する。二塁走者は前の回の最後に打撃を完了した者とし、打者は前回から引き続き正位打者(正しい打順)とする。

キャッチャーズボックス(捕手席)

捕手は、投球が投手の手から離れるまで「捕手席」に占めていなければならない。違反すると不正投球となる。

用具

(Equipment)



ボール

- 公式球:16インチソフトボール
●ジュニア:14インチソフトボール

バット

ソフトボール用

クラブ

※着用の規定なし

すべての打者は、1ボール、1ストライクから始まる。

[illegible]

投球のルール (Pitching)



主なルール

- ①死球による出塁は認められない。
- ②投球動作の際、投手は少なくとも投手板に片方の車輪(キャストを除く)が触れていなければならない。
- ③投球動作中またはバックスイング中、投手の手から球がスリップしたときは無効投球である。
- ④ワイルドピッチ・パスボールは適用されない。
- ⑤1投球につきフェイントは2回まで。



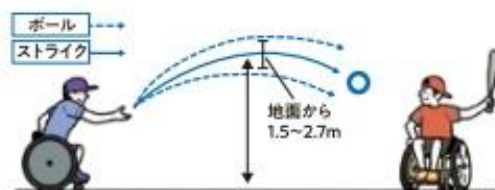
故意四球「Walk」

守備側チームが投球せずに、故意に打者を一塁へ歩かせるため、投手、捕手、あるいは監督が球審にその旨を通告すること。

クローホップ

投球時、投手板以外に車輪をずらして投球すること。不正投球となる。

ストライクゾーン



- ①投手の手から球が離れて本塁(ホームベース)に達するまでの間、アーチ(地面から1.5m~2.7mの空間)を描かなければならない。
- ②投球は、本塁の上方空間で、打者が自然な打撃姿勢をとっているときの、打者の捕手側の肩から、両ひざの本塁上を通過しなければならない。打者が、打席内のどこに位置するかは、ストライクゾーンには関係ない。ストライクゾーンは、あくまでも本塁の上方空間であり、これと打者が自然な打撃姿勢に入るときの打者の捕手側の肩、膝の位置がストライクゾーンを決める要素である。※違反球を打ったときあるいはスイングしたときには不正投球にならない。
- ③バウンドボールは打ってはならない。ピッチャーの投球が地面に着地した時点で、ストライク・ボールが判断される。



攻撃のルール (Offense)

打者



- ①打者はバントやチョップヒットをするとアウトになる(クラスQは適用外)。※チョップヒット: 打球を高く弾ませるために、打者がバットを振り下ろして地面にたたきつける打ち方。

打者



- ②バットにボールが当たるまでバッターボックスに車輪が入っているものとする。

走塁



- ③リードは可能。※投手がけん制をし、暴投となった際は、その塁に戻り次の塁を狙うことができる。

打者



- ④ツーストライク後の打球がファウルボールになった場合、打者はアウトになる。

走塁



- ⑤走者は盗塁できない。※ワイルドピッチ・パスボールは適用されないため盗塁できない。

走塁



- ⑥走者が相手のタッチプレーを避けるために、明らかに走路から外れた場合、ランナーはアウトを宣告される。※走路の基準は審判が権限を持つ。

まめ ち しき ルールの豆知識



- 1** 走者と守備者がベース上でぶつかった場合、ボールが落ちれば走者はセーフ、落ちなければアウト。

(注1) 守備側はボールを持っていない場合、走者の邪魔はしてはいけない。
(注2) タッチプレイ…ボールを完全捕球した状態で車椅子または棒にタッチをする。



- 2** 素手でベースを触れていても触塁とみなされる。ベース上で車椅子から体が落ちた場合、体の一部が車椅子に触れていれば、ベース上にいると判断される。



- 3** キャスターや後輪も含めた1つ以上の車輪がベースに触れていれば触塁とみなす。転倒防止用の後輪キャスターは車輪として含まないため、ベースタッチとみなさない。走者も野手も同じ。



- 4** ランダウンプレイでは、①守備側の禁止事項：ボールを持っていない人は走塁を邪魔してはならない。②走塁側の禁止事項：走路から外れてはならない。※守備側の場合は、審判の判断に委ねる。



競技用車椅子

一般的な車椅子ではなく、タイヤが「H」の字に付けられた競技用車椅子を使用する。2016年には車椅子ソフトボール専用の競技用車椅子も開発された。車椅子バスケットボール専用の車椅子とは違って、前にバンパーがない。地面に近いボールもキャッチしやすい。また足を横に開けるように作られている。



専用球場



1996年、テキサスに初めての車椅子ソフトボールの専用球場が誕生し、2019年現在、15の専用球場がアメリカ中に存在します。日本でも2020年に東大阪市にて車椅子ソフトボール専用球場が完成、今後さらに環境が整うことが期待されます。

クラス分け

(Classification System)

- ① 選手の障がいに応じてクラスⅠ(1点)からクラスⅢ(3点)に分けられる。※下図を参照
- ② ゲームに参加している選手の合計持ち点が21点を超えてはならない。
- ③ クラスQ選手が不在の場合は、9人の合計が19.5点以内で試合を行う。
- ④ 女性の選手は自分の持ち点からマイナス1.5点とする。
- ⑤ 18歳以下の選手は自分の持ち点からマイナス1点とする。
- ⑥ 持ち点がマイナスになることはない。0点となってもQ選手と同じわけではない。
- ⑦ 代打または代走を入れる場合でも、合計持ち点が21点を超える交代は認められない。

クラス	対象となる選手		
クラスⅢ	障がい	軽い	下肢の機能があり、旋回動作も十分にできる。主にL-3以下または下肢切断。健常者も含む。
		軽い	腹筋、背筋の機能があり、バランスを保てるが、下肢の機能および旋回動作が弱い。主に損傷部位がT-8からL-2。
		障がい	腹筋、背筋の機能がないもしくは弱く、座位バランスが悪い。主に損傷部位がT-7以上。
		障がい	頸椎損傷者。またはそれに準ずる上肢に障がいがある。 ※すべてのチームは出場選手の中にクラスQの選手を最低1人入れなければならない。クラスQの選手が不在の場合は、9人で守備を行い、打順10番目は自動的にアウトになる。
クラスⅡ	障がい	障がい	
クラスⅠ		障がい	
クラスQ (クアード)		障がい	
		重い	

プレイバックシリーズ

歴代優勝チーム(大会別)

	全日本選手権	北九州大会	ライオンズカップ	東京大会
2013	北海道ノースランドウォーリアーズ			
2014	北海道ノースランドウォーリアーズ	富若ホークス		
2015	東京レジェンドフェローズ	東京レジェンドフェローズ	埼玉A.S.ライオンズ	
2016	USA	北九州シルバーウィングス	埼玉A.S.ライオンズ	
2017	九州選抜	東海ユニテッドドラゴンズ	埼玉A.S.ライオンズ	USA
2018	北海道brave fighters	関西アンバランス	東京レジェンドフェローズ	USA
2019	東海ユニテッドドラゴンズ	北九州シルバーウィングス	東海ユニテッドドラゴンズ	USA

2013年に日本車椅子ソフトボール協会が発足し、

その後、北海道にて毎年、

全日本車椅子ソフトボール大会が開催されている。

第1回大会では、北海道と東京都の合計4チームから始まり、

その後は全国から12チームが集まる大会となった。

その翌年より北九州市でも

北九州市立大学の学生が中心となり大会を開催するようになる。

2013年よりプロ野球チーム「埼玉西武ライオンズ」が

スペシャルサポーターに就任し、

2015年にはプロ野球チーム初の主催となる

「ライオンズカップ車椅子ソフトボール大会」を開催。

2017年に東京都にて、初の全国大会が開催される。

アメリカ代表チームも招待した。2019年にはガーナ代表チームも参加している。

今後も全国的に日本国内において開催できる大会を増やしていきたいと考えている。

2017車椅子ソフトボール大会in東京



パラリンピックの
正式種目に
なるためには
**世界的な普及
が必要です。**

1970年代に、アメリカで始まった「Wheelchair Softball」。アメリカのサウスダコタ州スーフォールズにおいて、世界最初のチームが作られたとされる。その後、1976年にNational Wheelchair Softball Association (NWSA、全米車椅子ソフトボール協会)が設立され、飛躍的にチーム数が増えた。現在、アメリカには約80チーム(ジュニアチームを含む)が存在しており、毎年行われる全米NO.1を決める大会National Wheelchair Softball Tournament(NWST)に向けて各地で熱い戦いが繰り広げられている。NWSAはこの競技を世界的なスポーツとしての普及を目指していることもあり、2014年から「NWST 全米選手権」という大会名を「Wheelchair Softball World Series (WSWS ワールドシリーズ)」に変更し、世界各地から参加できる大会にした。現在も世界各国に普及を呼びかけている。

- 日本チームも日本代表を結成し、2012年から毎年この大会に参加している。2019年には、日本人で初めて車椅子ソフトボールをプレーした堀江氏が、日本での普及活動の功績を称えられ、日本人で初のNWSA殿堂入りを果たした。

- International Wheelchair Softball Federation
- 国際車椅子ソフトボール連盟



- 2017年1月、International Wheelchair Softball Federationが発足。現在は、アメリカ、日本、韓国、ガーナ、カナダ、南米、オーストラリア、ベルギー、フランスで競技団体が組織されている。
- 各国が連携を取り、2028年ロサンゼルス・パラーリンピック正式種目を目指している。

車椅子ソフトボールの歩み2012

レジェンドインタビュー

車椅子ソフトボール「チームJAPAN」

2012ワールドシリーズ



車椅子ソフトボールの始まりについて教えてください。

堀江: 齊藤さん達が北海道で車椅子ソフトボールの研究を始めたこと聞いて、「じゃあ、アメリカの大会に出ましょ」と思いました。

齊藤: 当時、私は北海道にある北翔大学大学院で車椅子野球と車椅子ソフトボールの研究をしていました。堀江さんが北海道まで来てくれて、「アメリカに行く?」って言うからおかしな人だな...と思いました。ただ、そのとき、「ほんとにアメリカに行けるのかも」と、とても興奮したのを覚えています。

初代チームJAPANはどのように集結したのですか?

堀江: ちょうどロンドン・パラリンピックの年で、その代表選考がほぼ終わっていたので、バスケのメンバーに声をかけました。最初が石井選手かな。

石井: そう。いきなりわたる(堀江選手)から「ソフトやんない? アメリカ行こうぜ」って言われて、すぐに「いいよ」って言いました。「面白そう」だと思って。そこから丈ちゃん(石川選手)や篠田、貢(千脇選手)に声をかけたんだよね。

誘われたとき、どうして参加しようと思ったのですか?

石川: 僕は熱狂的な阪神ファンなんです。小さいころから野球が大好きで。でも車椅子スポーツを始めたときにはバスケしかなかったから。「お! ついに! 野球!!」と思ってすぐに参加を決めました。

当時、高校生がいたそうですが、松田選手はなぜ応募しようと思ったのですか?

松田: ツイッターで「車椅子ソフトボール日本代表募集!!」みたいな記事を見つけて、当時高校生で車いすテニスをやっていたのですが、「ソフトボールか、野球か、なんか興味あるな〜」と思って応募しました。そうしたら堀江さんから「8月出発、旅費20万円振り込んで」って返信がありました。まるで振り込め詐欺ですね(笑) 怪しさは感じなかったです。それくらい車椅子ソフトボールに興味がありましたからね。

アメリカ遠征の思い出は?

篠田: 初日に専用球場を見せてもらったのですが、コンクリートで野球場のようにペイントされていて、「ここでやってみたいな!」って思いましたね。



千脇: 初めてだからルールとかも全然わかんなくて(笑) でも、最後に僕がサヨナラヒットを打って、3位に入賞したんです。初参加ながら。一同: 興奮しましたね。

2012年の参加後、国内ではどのような動きになったのですか?

齊藤: 「日本でもやろう」ということで、帰国後すぐに日本車椅子ソフトボール協会が立ち上がり、第1回全日本車椅子ソフトボール選手権大会が北海道で開催されました。

堀江: そう考えると、アメリカに誘って、本当によかったなと思いますね。



車椅子ソフトボールの歩み2014

北九州市立大学
での始まり

障がい者と健常者が
一緒にできるスポーツがしたい!

車椅子ソフトボールに惹かれた理由

山本: 担当実習の中で「障がい者スポーツ」というテーマがありました。「部活動で障がい者がやれないじゃないか」というのが研究のテーマで、障がい者と健常者が一緒にできるスポーツがしたい、というのがこの大学に来たのです。車椅子ソフトボールは「皆が一緒にできる」というところに惹かれました。これを絶対「ウチの売りにしたい」と思ったのです。

1期生で立ち上げての改革

溝口: 健常者であるゼミ生のみで2014年度第2回全日本選手権に初めて参加したときに、準優勝を果たしました。相手チームの障がい者の方のスピード感や技術を見て、「すごいな、尊敬できるな」と感じ、「自分たちのプレーは何か違う。健常者だけのチームでやっていて本当におもしろいのか?」と納得できなかった。だから、次に出るときは絶対に障がい者の方と一緒に、もっとパワーアップしていきたい、という思いで普及活動を始めました。

柴田: 「練習会します!」と言っても、いつも学生だけしか来ないのが当時の現状でした。もし健常者だけしか来なかったら、これじゃ障がい者スポーツではないな、と思ったんです。

ゼミ発足当時は…

柴田: ゼミ生のスタートは24人でした。卒業後、会社

に入るときは組織ってこんな感じかな?ってイメージしてやっていた。各組織に分かれるとすると何が必要かな?と考えると、次の4部門を作ったんです。

①【普及活動部門】病院にアポをとって、「こんな大会をするのでチラシを置かせてもらっていいですか?」とスーツを着て名刺を持って訪問しました。体験会の案内なども目に触れてもらえたらうれしいな、という思いでやりました。

②【営業部門】場所、道具などの資金を募るために作った部門です。色んなところに電話をかけ、初年度は協賛金24万円が集まったのです。

③【広報総務部門】Instagram、Twitter、フェイスブックなどSNS発信をしています。

④【開発部門】大会に向けた準備や道具を作る部門です。ユニホームやグッズの制作です。

衝撃的なエピソードは、総務のSNSで車椅子ソフトボールを知った佐賀県の方から「車椅子の野球がしたいが場所がない。環境がないので1度やってみよう」というメッセージが飛んできたことです。佐賀だけでなく長崎県や鹿児島県からも問い合わせをいただき、練習会など案内できるようになりました。

2年連続準優勝だけどまったく違う準優勝を味わえた、その1年を振り返って

溝口: 北海道大会を2回経験し、健常者だけで行ったあとの目標として「障がい者と一緒に行きたい」とい

う思いがあり、それを達成できたこと。さらに同じ成績というのも自分の中では達成感。ここからさらに発展するんだろな、してほしいな…という思いで卒業することができました。

山本: 初めてゼミを持つわけだから、1期生を出すときに「障がい者の人たちと大会に出たい」、それをやりとげられなかったんですね。その思いでやってきたので、北海道は行けただけで半分うれしかったです。

発展期は下川さんたちの時代

山本: 車椅子が0台から11台になって、場所も狭い多目的室から体育館を使えるようになり、環境が整いました。全国で勝つために、チェアスキルを学ぶために県外からも講師を授業に招きました。環境も整って練習もできるようになったので優勝を目指そうと思ったんです。結果的に下川さんの世代で初の全日本選手権優勝を果たすことができました。

松原: 初期の時代から一緒に活動してきた米田さん達、障がい者プレーヤーがいてこそその優勝だと感じます。全員でつかめて、少しばかり恩返しできたと感じます。北九州チームの成長と一緒に日本代表選手も輩出できるようになります。

日本代表を目指すという思い

米田: 目指していたわけではないですが、ただ楽しくかっこよくやりたいな、と思っていました。北九州から初めての選手となったのはうれしかったです。車椅子ソフトボールで地域を盛り上げることができたらうれしいです。

山本: チームを発足させた時から日本代表を北九州から発足させたいというのは1つの目標でもありました。だから非常にうれしかったです。

連盟の一員として

日本の車椅子ソフトボールにける今後の思い

下川: 1つは「日本中に普及させていきたい」ということ。僕が1年生の時に車椅子ソフトって聞いたら「何、それ?」が世の中の当たり前という感じでした。野球やソフトは健常者スポーツの中では誰もが知っている、見たことのあるスポーツですが、「障がい者になつたからできない」というのはもったいないな、と思うので、たとえ障がいを持って生まれても、途中から障がい者になっても「車椅子ソフトボールがあるんだよ」というのを全国どこでも知られるようなカタチに普及させていきたいです。もう1つは、パラリンピックの正式種目にしたいこと。日本でも競技レベルを上げるために、協会としても代表合宿や選考会をして競技レベルを上げて、パラリンピックで金メダルをとれるようにしていきたいです。メジャーなバラスポーツをやった方が、注目が集まると思いますが、正式種目でない中でも応援してくれていた障がい者の方々がいるので、その方たちをパラリンピアンにできたらうれしいです。

今後の北九州での取り組み

山本: 普及期があって発展期があって全国大会も開けるようになって、全日本でも優勝できるように…と進み、新しい取り組みとして昨年は新しく小・中学校に車椅子ソフトボールを教えるに行くというのをやっています。子ども達に「米田さんが日本代表です」と紹介して、講師として教えてもらっています。その中に、彼らに何か感じてもらって、北九州の子ども達の(障がい者に対する)意識を少しずつ変えていくのを今のゼミ生には役割として背負ってほしいです。小・中学校に連絡して昨年は2校、今年は4校の申し込みがあったので、せっかく日本代表もいるので北九州での取り組みをやってみたいです。

米田さんが選手として今後やっていきたいこと

米田: 日本代表として「誰かの見本になれるように」と思っています。

卒業生たちの今後、北九州への関わり

松原: 岡山で小学校への出張をやっていますので、そこで未来のプレーヤーを育てたいです。

溝口: 障がい者スポーツを普及させたい。「障がい者スポーツ」という言葉をなくしたい、という思いがあって市役所に入職しました。今、教育委員会にいて教科に「障がい者スポーツ」を取り入れたいと思っています。また、小・中学校だけでなく、特別支援学校にもアプローチしてほしい。子どもたちが知ると親世代も知られるので一番広がりやすいターゲットとしてあるので、活動を続けてほしいです。

柴田: 山本ゼミは大会ができるノウハウがある、というのがすごいと思うので、ノウハウをいろんなところに置いていけたらいいな、と思う。学生のうちから大会を運営していたのはゼミで学んだ財産なので、普及していきたい。卒業生として模範になって、後輩たちががんばってくれたらいいな。

山本: このガイドブックができたら、これを使って普及もできるので、新型コロナウイルスという状況が収まってから、バーンと一気にいけるようにエネルギーだけは蓄えておきたいですね。



米田正人(障がい者プレーヤー 2015年から5年連続日本代表として活躍)

車椅子ソフトボールの歩み2015～

初のプロ野球チームとの連携
「埼玉西武ライオンズ」

「ライオンズは地域社会に携わる活動や野球振興を大切にしている。その中で2013年に車椅子ソフトボール協会の活動を知り、その活動理念に賛同し支援が始まりました。現在、球団として取り組んでいる「L-FRIENDS」というコミュニティプロジェクトの中では、野球振興が一つの大きなテーマとして掲げられています。年齢や性別、障がいや障害を問わず「誰もが」ベースボール型スポーツである車椅子ソフトボールには、無限の可能性を感じています」

株式会社西武ライオンズ
L-FRIENDSグループ 川原里美

(写真中央) 遠山勝元(埼玉A.S.ライオンズ)
(写真右) 堀江 航(埼玉A.S.ライオンズ発起人)



ライオンズカップいかがでしたか？

堀江：2015年に「ライオンズカップ車椅子ソフトボール大会」を開催していただいて、「埼玉A.S.ライオンズ」というチームが結成されました。(写真／プロ野球選手と同じユニフォーム)アメリカでは、MLBのチームが車椅子ソフトボールをサポートしていたので、日本でも同じような動きができたことは非常に重要な出来事だったと思います。

参加してみてどうでしたか？

遠山：第2回ライオンズカップの観戦に行った際に、堀江さんから「かっちゃんも出よう」と言われ、そのままユニフォームを着て打席に入りました(笑)一応打って、塁には出たんです!!それが僕にとって最初の車椅子ソフトボールでした。「すごく楽しいな〜」って思いました。



その翌年に「ライオンズカップジュニア大会」が行われたんですね？

堀江：ずっとジュニアの育成をしたかったんです。ただ、実践するきっかけがなかった。かっちゃん(遠山選手)が参加していたこともあって、ライオンズさんが賛同してくれました。かっちゃん、めっちゃ活躍していましたよ。

遠山：同じ世代と団体種目を経験するのが初めてだったので、すごく楽しかったです。それまでは、テニスや陸上など、車椅子競技は個人種目しかなかったんです。この後、全国に広がって、ジュニアの全国大会やってほしいですね!!

堀江：ジュニア選手の兄弟や選手の息子なんかも参加していて、障がいの有無を問わない車椅子ソフトボールならではの大会になりましたね。アメリカではMLBが車椅子ソフトボールをサポートしています。日本でも同じように、プロ野球12球団の車椅子ソフトボール大会を実現したいですね。

車椅子ソフトボールの歩み2017～

中外製薬株式会社×東京国際車椅子ソフトボール大会

なぜ車椅子ソフトボールの支援を？

当社が障がい者スポーツを推進していく中で、アドバイスをいただいたり、協働してイベントを実施する方より、車椅子ソフトボールを紹介いただきました。障がいの有無、性別や年齢にかかわらず、誰もが一緒にできるスポーツであるという点に非常に魅力を感じて、支援を始めました。(中外製薬 加藤正人)

企業にとってのメリット

多くの社員が大会運営ボランティアとして協力しており、社内での障がい者スポーツの普及や理解促進に非常に役立っています。また車椅子ソフトボールは、障がい者スポーツ関係者はもちろん様々な立場の方が関わっており、私たちが社会貢献活動を進めていく上でのネットワークが広がっています。(中外製薬 加藤正人)



第1回東京大会はどのような大会でした？

パラリンピックの正式種目を目標に掲げている以上、最も競技者の多い関東地域で実施することが我々のミッションでした。さらに、全国大会に加えて国際大会を開催する初めての開催でありながら、非常に規模の大きな取り組みとなりました。

(協会理事 竹内圭)

企業様からご支援いただくということは、大変ありがたいと同時に、我々のミッションを明確にしてくれます。数ある競技団体から、車椅子ソフトボールを選んでいただきありがとうございました。(協会会長 高山樹里)

東京大会へのサポートが企業にもたらしたものは？

全国からチームが集まり、またアメリカ代表チームを招聘しての大会ということもあり、多くのの方々



に関心を持っていただきました。私たちにとてもこの大会を支援することで、社会貢献活動を積極的に行っている企業として認知度が向上したと感じています。(中外製薬 加藤正人)



今後の車椅子ソフトボールを広めていく意義は？

日本国内においては、「障がい者と健常者が一緒にできること」が車椅子ソフトボールの一番の魅力だと思います。車椅子ソフトボールの普及を通じて、障がい者への理解を深め、障がい者と健常者との垣根をなくしていけると考えております。(協会理事 竹内圭)

今後の展望

今後ユニバーサルスポーツの代表的なものとして日本での普及を進めるためにも、協会と協力して日本全国で普及活動を進めていきたいです。(中外製薬 加藤正人)

パラリンピックの正式種目を目指しています。そのために、国内外において、国際大会を整備していく必要があります。この目標実現に向けて、企業の皆様にもお力添えをいただきたいです。(協会会長 高山樹里)

車椅子ソフトボールの歩み2019

世界一の背景 ワールドシリーズ 国際ディビジョンで初優勝!



一橋幸也(キャプテン):埼玉A.S.ライオンズ所属。
2015年4月車椅子ソフトボールをFacebookで見つけて参加。
小貫伸次(監督):東京レジェンドフェローズ所属。2016年、高校3年生の秋にライオンズカップの広告をTwitterで発見し、そこで車椅子ソフトボールと出会う。
下川友輝(コーチ):日本車椅子ソフトボール協会理事。大学1年目で車椅子ソフトボールに出会う。



日本代表に初選出したのはいつですか?

一橋:2015年の日本で開催されたワールドシリーズから日本代表に初選出です。アメリカへのワールドシリーズは2016年から。初めはボールの大きさに驚いていました。

小貫:2017年の東京の大会が日本代表初選出です。2018年からワールドシリーズへ。初めは車椅子操作を中心に取り組んでいました。

2019年に日本代表を強くするための取り組みとは?

下川:高山会長の「日本代表を強くしたい」という考えで山本浩二さんが監督になられ、私がコーチで新生日本代表を結成することになりました。その中で新しいチャレンジとして2019年5月に選考会を実施しました。これまでアメリカに行く選手は、手を挙げたら行くことができました。ただ、それでは日本代表の重みが足りないと感じたので、選考会をしよう、となったのです。

ワールドシリーズでアメリカを訪れてどうでしたか?

小貫:国歌斉唱のとき、日本代表のユニフォームを着ているという実感が湧きましたね。

一橋:場所はカンザスで、会場も広く、とにかく雰囲気がい

い! 本場アメリカはいい場所です!

ワールドシリーズ1週間前乗りでシカゴに入った理由は?

小貫:アメリカで本場を感じたいと思い、ホームステイしながらチームの練習に参加しました。日本にはない車椅子ソフトボールの専用球場があり、驚きました。いつか日本でも専用球場ができたらうれしいです!

日本代表がアメリカと試合をするようになった2012年から7年越しの初勝利!そして世界一の栄冠を獲得されてどうですか?

一橋:アメリカに勝ったのはうれしかった。長い道のりでした。

小貫:ラテンアメリカ戦ではアメリカで初めてホームランを打つことができました。「本当に勝ったんだ」という感覚でした。優勝のトロフィーをもらってより実感が湧きましたね。世界一になり、より競技性を求めることになるんだと感じました。

今後の目標を教えてください

一橋:パラリンピックの正式種目になれたらうれしいですし、選手としても活躍したいですね。自分は埼玉A.S.ライオンズに所属していますが、プロ野球12球団それぞれに車椅子ソフトボールチームができて、大会ができれば面白いのです。

下川:息子さんの運動会にも参加せず日本代表選考会の方へ参加したり、自分の時間をさいでも普及活動に尽力している選手が多くいます。そういう選手への恩返し、パラリンピックの正式種目になって、注目されることだと思うんですね。2028年にパラリンピックの正式種目入りを目指して、国内外の普及活動に尽力していきます。

あとがき

車椅子ソフトボールが日本に普及してきて10年が過ぎようとしています。本編でもありましたように、2012年、9人でアメリカで行われたワールドシリーズに参加、翌年から日本での普及活動が始まりました。

様々な方の協力のお陰で、現在では日本全国18チーム200名を超える競技人口へと急成長しています。これから益々、普及していく後押しに本ガイドブックがなれば幸いです。

日本では障がいの有無関係なく誰もが大会に参加できます。これからも年齢・性別・障がいの有無、関係なく、誰もが楽しめるこのスポーツが普及していくことを願っています。



青藤雄大

日本車椅子ソフトボール協会 理事
北海道メディカルスポーツ専門学校 所属
一般社団法人「HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS」代表
2011年北陸大学在学中に車椅子ソフトボールに出会う。2012年大学院生でアメリカにて行われたワールドシリーズに初参加。2013年4月協会設立時から任意でサポート。2015年から2年間は日本代表監督も務める。
2017年からは「ほっかいどう未来チャレンジ基金」を利用し、アメリカへ留学。アリゾナ・テキサス・アラバマの3州に滞在し、障がい者スポーツについて学んだ。
現在は一般社団法人「HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS」を設立し、車椅子ソフトボールのみならず、ジュニア向けの障がい者スポーツの普及活動にも尽力している。



下川友輝

日本車椅子ソフトボール協会 理事
株式会社スポーツフィールド 所属
広島県車椅子ソフトボール広島サリール代表
2014年北九州大学在学中に車椅子ソフトボールに出会う。大学4年時には全日本選手権にて優勝を経験。
大学在学時から九州地方を中心に車椅子ソフトボール、並びに障がい者スポーツの普及活動に尽力。その他にも東京都や青森県でも講演会を実施した。
2018年より日本代表コーチに就任し、2019年ワールドシリーズでは世界一を経験。
現在は株式会社スポーツフィールドに勤務しながら、日本協会理事も務め、全国での大会運営・普及活動に尽力している。

問い合わせ先/日本車椅子ソフトボール協会
ホームページ/ <https://www.jwsa.or.jp>
メールアドレス/ info@jwsa.or.jp



本書の一部、あるいは全部を無断でコピーすることは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となりますので禁止します。ご意見ご感想はホームページまたはメールアドレスより承っております。